

基本的な考え方

I 研究の背景	1
II 研究主題	2
III 研究の視点	2

研究の内容

◆ 研究構想図	5
◆ 実践事例の読み方	6
◆ 実践事例	
【実践事例1】小学校 理科を通した取組	8
【実践事例2】小学校 外国語活動を通した取組	12
【実践事例3】小学校 社会を通した取組	16
中学校 社会を通した取組	20
【実践事例4】中学校 保健体育（体育分野）を通した取組	24
◆ 〈参考〉児童・生徒アンケート	28

研究のまとめ

研究のまとめ	29
--------	----

講師資料

教科の特性に沿った ESD の在り方	30
--------------------	----

基本的な考え方

I 研究の背景

1 新学習指導要領と ESD

中央教育審議会が平成28年12月に示した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」には、「持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」とあり、求められる子供の姿などが示されている。

答申に基づき策定され、平成29年3月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領及び平成30年3月に公示された高等学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科等においても、関連する内容が盛り込まれている。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）

自然環境や資源の有限性等を理解し、持続可能な社会づくりを実現していくことは、我が国や各地域が直面する課題であるとともに、地球規模の課題でもある。子供たち一人一人が、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できるよう、我が国は持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議のホスト国としても、先進的な役割を果たすことが求められる。

小・中学校学習指導要領（平成29年告示）

【前文】これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

【第1章 総則】第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童（生徒）に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。

2 先行研究での課題

「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕（平成24年3月 国立教育政策研究所）においては、次のことなどが課題として掲載されている。

- ・ 「構成概念」と「能力・態度」の関係は、互いに独立した関係にあるとはいえない。例えば、「協調性」を意識した活動場面では、「コミュニケーション力」「他者と協力する態度」を期待する。二つの指標は独立したものとは言えない。
- ・ 「構成概念」や「能力・態度」について、どこまで扱えば、子どもが学習したといえるかわりにくい。
- ・ ESDの視点は個々にみると適切だと思われるが、多岐にわたる面もあり、授業に導入する際に、焦点をきちんと絞る必要がある。焦点化しないと、様々な視点があれもこれもあてはまるというように分散的になってしまいがちになる。
- ・ ESDの視点の重要性は理解できるが、これにとらわれすぎると、指導上の柔軟性を失い、教科本来の指導が縛られてしまう可能性もあるのではないかと。

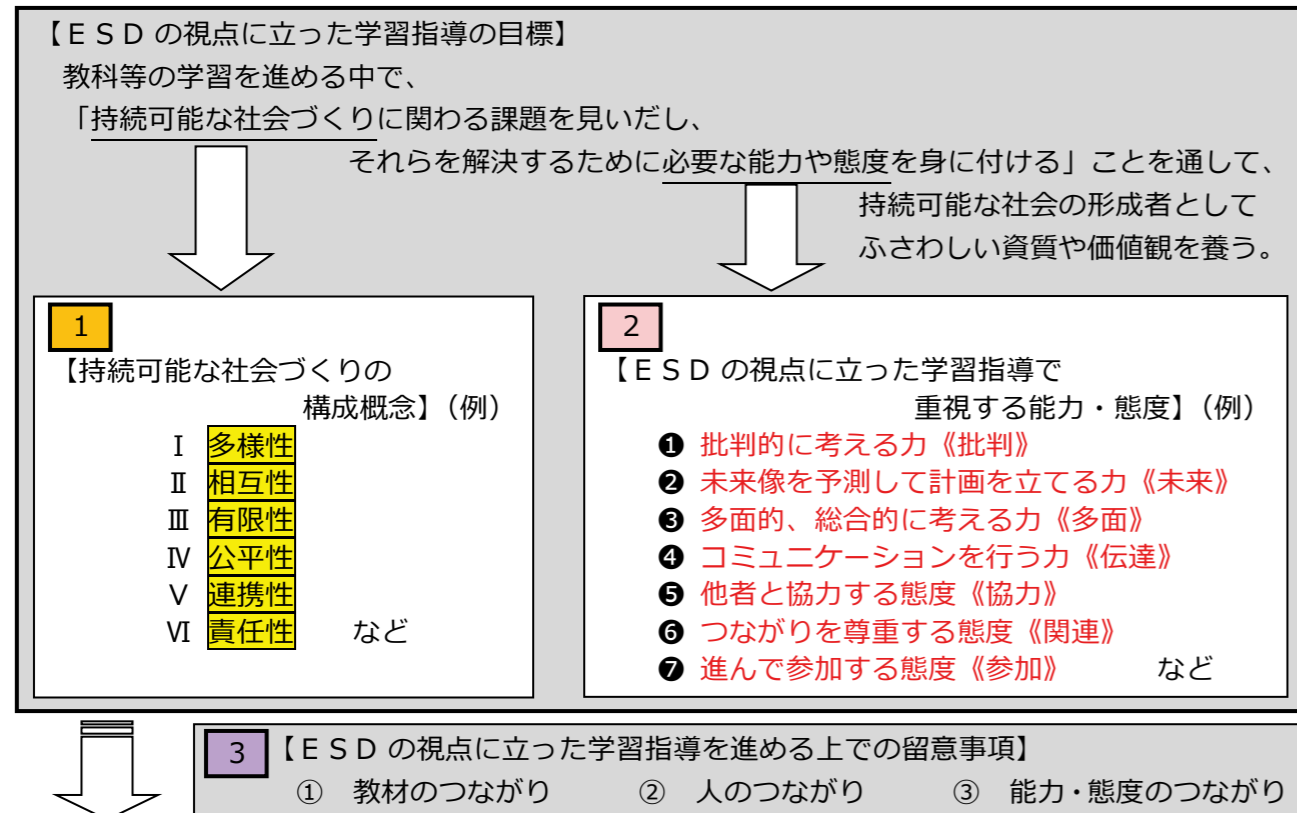
II 研究主題

〈研究主題〉これからの時代に求められる学校教育の創造 －「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指して－

研究の方向性（研究仮説）

新学習指導要領に基づき、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童（生徒）に、各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図ることが重要である。

本研究では、子供たちに育成したい資質・能力を明確にして授業づくりを行っていくことが大切であると考えた。その際、ESDの視点に立った学習指導の目標に示された内容を授業に取り入れることを通して「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を子供たちが身に付けることができると考えた。



教科等の授業設計・授業改善

※ 数字は事務局によるもの

国立教育政策研究所（2012）「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究（最終報告書）」
図1「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より作成

III 研究の視点

持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちに必要な資質・能力を、本研究では「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」（以下、「持続の資質・能力」という。）として設定し、その育成を目指した学校教育を創造していく上で、次の4つの視点から研究に取り組んだ。

【視点1】学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」の設定

図1の**1**【持続可能な社会づくりの構成概念】（例）は、「持続可能な社会づくり」を捉える要素である。このことから、「持続の資質・能力」を設定する際に、**1**【持続可能な社会づくりの構成概念】（例）を踏まえることが重要であると考えた。

具体的には、「持続の資質・能力」を設定する際には、**1**【持続可能な社会づくりの構成概念】（例）等を踏まえて、資質・能力の3つの柱に沿って設定する。各柱に**1**【持続可能な社会づくりの構成概念】（例）の6つ全てを踏まえて設定するのは現実的ではないと考えた。そのため、各柱に**1**【持

続可能な社会づくりの構成概念】（例）のどの構成概念（例）を重視するかを検討し、「重視する構成概念」として位置付けることにした。なお、**1**【持続可能な社会づくりの構成概念】（例）の6つ全てを位置付けられるように留意した。

そして、学校で育成を目指す「持続の資質・能力」から各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」を設定した。

【例】昭島市立瑞雲中学校

学校で育成を目指す「持続の資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域や社会・世界に関わる様々な事物・現象を多面的に捉え、問題を見いだすための知識や技能を身に付ける。多様性 ○ 様々な事物・現象を相互に関係付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。相互性 ○ 限りがある資源等の中で、解決可能な計画を立てるための知識や技能を身に付ける。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事物・現象を互いに関連付けて、問題を見いだしたり、問題の解決方法を考えたりする力を養う。相互性 ○ 問題の解決方法を主体的に他者と議論し、公平・公正・平等の基、判断する力を養う。公平性 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。連携性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら設定した計画に責任をもって、自主的・自発的に取り組む態度を養う。責任性 ○ 地域や社会・世界に関わる様々な問題の解決に向けて限りがある資源等の中で、解決可能な計画を立てようとする態度を養う。有限性

各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」

【視点2】「持続の資質・能力」を育成するカリキュラム・マネジメントの推進

各教科等の単元（題材）の指導に当たっては、各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」の全てを踏まえることは難しいため、単元（題材）の目標や内容等を分析して、ねらいにふさわしい「重視する構成概念」を精選することにした。そこで、単元（題材）において、焦点化する「重視する構成概念」を検討し、「焦点化した構成概念」として位置付けることにした。

なお、単元（題材）の目標等を分析する際には、「持続の資質・能力」の3つの柱に沿って、「焦点化した構成概念」を各教科等の単元（題材）の目標や内容等に内包させるようにした。その際、年間を通して「持続の資質・能力」の育成を図るために、3つ以上の単元（各学期で1回程度）を設定することにした。

そして、これらを「『持続の資質・能力』の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧」としてまとめ、教科等横断的な視点で計画的・組織的に「持続の資質・能力」の育成を図ることにした。

【例】昭島市立瑞雲中学校 「『持続の資質・能力』の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧」

第1学年で育成を目指す「持続の資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
多様性 相互性 有限性	相互性 公平性 連携性	責任性 有限性

	1 学期			2 学期			3 学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	花巻の向こう 多様性			今に生きる言葉 有限性			さまざまな表現技法 有限性		
社会				アフリカ州 公平性			中世までの日本 相互性		
数学				比例・反比例 相互性			空間の図形 連携性		
理科								大地の変化 有限性	

また、**3**【ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項】については、カリキュラム・マネジメントの推進の取組に取り入れて考えることにした。

研究の内容

研究構想図

〈研究主題〉 これからの時代に求められる学校教育の創造 - 「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指して -

目指す子供像

- 地域の将来などを自らの課題として捉えることができる子供
- 課題の解決に向けて自分たちができていることを考える子供
- 多様な人々と協働し実践できる子供

研究の方向性（研究仮説）

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成において、E S D の視点に立った学習指導の目標に示された内容を授業に取り入れることによって、目指す子供像が達成できると考えた。

【視点1】学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」の設定

- 「重視する構成概念」を位置付けた「持続の資質・能力」の設定

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学校で育成を目指す「持続の資質・能力」		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」		

重視

【視点2】「持続の資質・能力」を育成するカリキュラム・マネジメントの推進

- 単元（題材）における「焦点化した構成概念」の設定

持続可能な社会づくりの構成概念

I 多様性	II 相互性	III 有限性
IV 公平性	V 連携性	VI 責任性

E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度

- ① 批判的に考える力《批判》
- ② 未来像を予測して計画を立てる力《未来》
- ③ 多面的、総合的に考える力《多面》
- ④ コミュニケーションを行う力《伝達》
- ⑤ 他者と協力する態度《協力》
- ⑥ つながりを尊重する態度《関連》
- ⑦ 進んで参加する態度《参加》

焦点化

【視点3】「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の指導計画の作成

- 「焦点化した構成概念」と関連付けた「焦点化した能力・態度」の設定

【視点4】「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の学習評価の実施

- 教科等の目標に準拠した学習評価
- 単元（題材）前後の児童・生徒アンケート

- 検証方法 ○ 検証授業の実施 ○ 単元（題材）前後における児童・生徒アンケートの実施

【視点3】「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の指導計画の作成

子供たちは、各教科等の学習活動において、**2**【E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度】（例）を身に付けていくと捉え、「焦点化した構成概念」と**2**【E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度】（例）を関連付けて指導していくことが重要であると考えた。

そこで、単元（題材）の指導計画を作成する際には、「焦点化した構成概念」に応じた「持続の資質・能力」の柱を設定した時間において、**2**【E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度】（例）について目標にふさわしい活動を分析し、焦点化して、「焦点化した能力・態度」として位置付けることにした。

なお、年間で設定した3つ以上の単元において、「焦点化した構成概念」に対して、**2**【E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度】（例）の7つ全てを位置付けられるように留意した。

【例】昭島市立瑞雲中学校 第1学年 保健体育（体育分野）

単元で「焦点化した構成概念」□（思考力、判断力、表現力等）**【連携性】**

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの視点	評価規準（評価方法）	記録
1	特性や成り立ち、歴史や技能の名称などを理解する。必要な技能を知る。	○ ベースボール型の特性とソフトボールの歴史についてのオリエンテーションを行う。 ○ ソフトボールゲームに取り組む。	（連携性）	主体的な学び	知①（学習カード） 態①（観察）	○
2（本時）	スローイングとキャッチについてのポイントを中心に、仲間のよさや課題を伝え合う。	○ グループ操作やスローイングに注意しながらキャッチボールをする。 ○ フォースプレーゲームに取り組む。	批判	対話的な学び	思①（観察、学習カード）	

【視点4】「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の学習評価の実施

「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の指導計画に沿って、その教科等の目標に準拠した評価を行うことで、目標や内容等に内包させた「持続の資質・能力」の育成を評価した。その際、教師の授業観察や児童・生徒のワークシート等による評価と、単元（題材）前後に児童・生徒アンケートによる評価を合わせて行った。

なお、児童・生徒のアンケートは、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、未来の創り手となるために必要な力として他の学習や生活の場面でも活用できる生きて働く知識となっていること（表1（1））、「持続の資質・能力」につながる「焦点化した構成概念」を内包させた各教科等の単元（題材）で育成を目指す資質・能力（表1（2）～（4））、「持続の資質・能力」（表1（5））の3つの内容で構成した。

表1 「児童・生徒アンケート」質問項目（例）

	質問	とても思う	だいたい思う	あまり思わない	思わない
(1)	（新学習指導要領の趣旨を踏まえた質問）	4	3	2	1
(2)	（教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問）	4	3	2	1
(3)	（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問）	4	3	2	1
(4)	（教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問）	4	3	2	1
(5)	（各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問）	4	3	2	1

実践事例 の読み方

「持続の資質・能力」の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧の読み方

重視する構成概念

学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」は、「持続可能な社会づくりの構成概念(例)」等を踏まえ、資質・能力の3つの柱に沿って設定した。その際、各柱に6つ全てを設定するのは現実的でないことから、「重視する構成概念」として位置付けた。

※ 実践事例の単元において「重視する構成概念」については朱書きで示した。

焦点化した構成概念

各教科等の単元(題材)の指導に当たっては、各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」の全てを踏まえることは難しいため、ねらいにふさわしい「重視する構成概念」を精選し、「焦点化した構成概念」として位置付けた。

※ 実践事例の単元において「焦点化した構成概念」については朱書きで示した。

単元名
焦点化した構成概念

【実践事例4】中学校 保健体育(体育分野)を通じた取組

(第1学年)

昭島市立瑞雲中学校

本校は、平成28～30年度の昭島市小中一貫教育モデル校として、これからの時代に求められる変化の激しい社会を生き抜く力の育成を目的とし、「つなぐ、そえる、つらぬく」のキーワードのもと、学区の小学校2校と連携して小中9年間を見通したカリキュラムの作成や小中一貫教育の必要性、課題についての研究を進めてきた。

今年度は、これまでの研究成果を生かしながら、さらに「主体的・対話的で深い学びの実現」や、「持続可能な社会の実現を目指す教育活動」の推進を目指し、ESD及びSDGsの視点に立った教育計画を作成し、授業実践を行ってきた。「持続可能な社会の創り手」の育成については、必要な資質・能力を学校及び各学年で設定し、更に教育活動全体で横断的に取り組んできた。また、各教科等において「焦点化した構成概念」や「共通した能力・態度」については、教科研修を通して全教員で共通理解を深めた。本研究では、保健体育分野における成果と課題を検証することを主とし、各教科等での授業改善につなげる。



「持続の資質・能力」の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧

学校	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			学びに向かう力、人間性等			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
中学校	○ 地域や社会・世界に関わる様々な事象・現象を多面的に捉え、問題を発見するための知識や技能を身に付ける。 ○ 様々な事象・現象を相互に関連付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。 ○ 限りある資源の中で、解決可能な計画を立てるための知識や技能を身に付ける。	○ 様々な事象・現象を互いに関連付けて、問題を見いだしたり、問題の解決方法を考えたりする力を養う。 ○ 問題の解決方法を主体的に他者と議論し、公平・公正・平等の観点から判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。	○ 自ら設定した計画に責任をもって、自主的・自発的に取り組む態度を養う。 ○ 地域や社会・世界に関わる様々な問題の解決に向けて限りある資源の中で、解決可能な計画を立てようとする態度を養う。	○ 知識 ① ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連する名前や出来栄を伝える。 ② 仲間と協力する態度で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。 ③ 基本的なバント操作と走塁での攻撃と守備を伝える。 ④ ホール操作と定位置での守備などについて攻守を伝える。	○ 知識・技能 ① 提示された情報のポイントやつまりの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝える。 ② 仲間と協力する態度で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。 ③ 体や技術の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付けていく。	○ 主体的に学習に取り組む態度 ① ソフトボールに積極的に取り組むこと、フェアなプレイを守ること、作戦などについて話し合いに参加しようとする。一人一人の役割に応じたプレイなどを認めること、仲間の学習を援助しようとするなどを通して、健康・安全に楽しむことができるようになる。	○ 学びに向かう力、人間性等 ○ 自ら設定した計画に責任をもって、自主的・自発的に取り組む態度を養う。 ○ 地域や社会・世界に関わる様々な問題の解決に向けて限りある資源の中で、解決可能な計画を立てようとする態度を養う。	○ 知識及び技能 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な事象・現象を多面的に捉え、問題を発見するための知識や技能を身に付ける。 ○ 事柄において相互に関連付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。	○ 学習問題の関連性や問題点を見いだす力を養う。 ○ 問題の解決方法を公平・公正・平等の観点から判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。	○ 集団で決定した計画に責任をもって、粘り強く取り組む態度を養う。 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な問題について、限りある資源の中で解決方法を考えようとする態度を養う。
第1学年	○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な事象・現象を多面的に捉え、問題を発見するための知識や技能を身に付ける。 ○ 事柄において相互に関連付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。	○ 学習問題の関連性や問題点を見いだす力を養う。 ○ 問題の解決方法を公平・公正・平等の観点から判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。	○ 集団で決定した計画に責任をもって、粘り強く取り組む態度を養う。 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な問題について、限りある資源の中で解決方法を考えようとする態度を養う。	○ 知識及び技能 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な事象・現象を多面的に捉え、問題を発見するための知識や技能を身に付ける。 ○ 事柄において相互に関連付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。	○ 学習問題の関連性や問題点を見いだす力を養う。 ○ 問題の解決方法を公平・公正・平等の観点から判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。	○ 集団で決定した計画に責任をもって、粘り強く取り組む態度を養う。 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な問題について、限りある資源の中で解決方法を考えようとする態度を養う。	○ 知識及び技能 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な事象・現象を多面的に捉え、問題を発見するための知識や技能を身に付ける。 ○ 事柄において相互に関連付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。	○ 学習問題の関連性や問題点を見いだす力を養う。 ○ 問題の解決方法を公平・公正・平等の観点から判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。	○ 集団で決定した計画に責任をもって、粘り強く取り組む態度を養う。 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な問題について、限りある資源の中で解決方法を考えようとする態度を養う。	

学期ごとの設定

年間を通して「持続の資質・能力」の育成を図るために、「焦点化した構成概念」は、各学期で1回程度、年間を通して3つ以上の単元を設定した。

「持続の資質・能力」の育成につながる単元(題材)の指導計画の読み方

単元の目標

学習指導要領を踏まえ、各教科等で育成を目指す資質・能力を単元の目標として示した。「持続の資質・能力」は、単元の目標や内容等に内包させて設定していることから、その教科等の目標に準拠した学習評価を行うことにより、「持続の資質・能力」の評価にもしている。

焦点化した能力・態度

「焦点化した構成概念」に応じた「持続の資質・能力」の柱を設定した時間において、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)」にふさわしい活動を焦点化し、「焦点化した能力・態度」として示した。

評価規準及び記録

評価規準については、「知識・技能」を「知」又は「技」、「思考・判断・表現」を「思」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」として省略して示した。

児童・生徒の学習状況を把握できる段階で記録に残す場面を「記録」とし、「○」が付いている時間に行うことにした。

第1年 保健体育(体育分野) 単元名 「ベースボール型(ソフトボール)」

◆ 単元の目標
(1) ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連する名前や出来栄を伝えるとともに、基本的なバント操作と走塁での攻撃、ホール操作と定位置での守備などについて攻守を伝えることができるようになる。
(2) 攻守などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えや考えを他者に伝えることができるようになる。
(3) ソフトボールに積極的に取り組むこと、フェアなプレイを守ること、作戦などについて話し合いに参加しようとする。一人一人の役割に応じたプレイなどを認めること、仲間の学習を援助しようとするなどを通して、健康・安全に楽しむことができるようになる。

◆ 単元の評価規準
① 知識
○ ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連する名前や出来栄を伝える。
○ 仲間と協力する態度で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。
○ 基本的なバント操作と走塁での攻撃と守備を伝える。
○ ホール操作と定位置での守備などについて攻守を伝える。

② 思考・判断・表現
○ 提示された情報のポイントやつまりの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝える。
○ 仲間と協力する態度で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。
○ 体や技術の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付けていく。

③ 主体的に学習に取り組む態度
○ ソフトボールに積極的に取り組むこと、フェアなプレイを守ること、作戦などについて話し合いに参加しようとする。一人一人の役割に応じたプレイなどを認めること、仲間の学習を援助しようとするなどを通して、健康・安全に楽しむことができるようになる。

◆ 単元の指導計画と評価計画(全9時間)
○ 単元で「焦点化した構成概念」(「思考力、判断力、表現力等」)「焦点化した能力・態度」を主体的・対話的で深い学びの実現(「主体的な学び」)として示す。

時	目標	学習活動	評価規準(評価方法)	記録
1	特性や成り立ち、歴史や技術の名称などを理解する。必要な技能を知る。	○ ベースボール型の特性やソフトボールの歴史についてのオリエンテーションを行う。 ○ ディーボールゲームに取り組み。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
2	スローイングとキャッチングについてのポイントに基づき、仲間との協力や課題を伝える。	○ グローブ操作やスローイングに注意しながらキャッチボールをする。 ○ フォースプレーゲームに取り組む。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
3	バッティングについてのポイントに基づき、仲間との協力や課題を伝える。	○ バント操作に注意しながらティーバッティングをする。 ○ フォースプレーゲームに取り組む。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
4	個人技能を高め、連携した攻撃の仕方を見学する。	○ アイソレーションを行う。 ○ クワッパゲームに取り組む。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
5	ルールを確認して、状況に応じてどのように動いたらよいか考え、話し合いに参加する。	○ アンチゲームの確認を行う。 ○ フォースアウトとタッチアウトの区別に注意しながらゲームに取り組む。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
6	ポイントを確認して、バント操作を行うことができ、役割を決めて作戦を考え、話し合いに参加する。	○ 実践スタートを実施する。 ○ 打順や守備位置など従前決めたミーティングを行う。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
7	バント操作と走塁での攻撃を伝えることができる。それ以外の動きを生かし、チームに合った作戦を考えることができる。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
8	バント操作と走塁での攻撃を伝えることができる。それ以外の動きを生かし、チームに合った作戦を考えることができる。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○
9	バント操作と走塁での攻撃を伝えることができる。それ以外の動きを生かし、チームに合った作戦を考えることができる。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	① 知識 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	○

◆ 本時の指導案(第2時)
○ 本時の目標
○ スローイングとキャッチングについてのポイントに基づき、仲間との協力や課題を伝える。

○ 本時で「焦点化した能力・態度」(「主体的に学習に取り組む態度」)を身に付けるための学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 15分	○ キャッチボールを行う。 ○ 捕り方と投げ方のポイントを確認して行う。	○ けがをしないように、準備運動を確実に行うようにし、生徒の健康観察を行う。 ○ 走り方のアドバイスを行う。 ○ 目標と授業の流れを伝える。	
展開 30分	○ フォースプレーゲームに取り組む。 (「主体的に学習に取り組む態度」) ○ 本時から投げたボールを持って走る。 ○ ボールを持った選手よりも先にゴールを制した選手が得点になる。 ○ 両チーム1回ずつ攻守を終えた後のアドバイザータイムでキャッチングについてのアドバイザー権を取り、投げ方、捕り方を意識して行う。	○ アドバイスを行う。 ○ ベースにコーンを使って、どちらが先にコーンを倒したか分りやすいようにする(接触防止も)。 ○ ベースでどこに投げたらよいか声を掛け合うように変更する。 ○ アドバイスタイムでは、スローイングやキャッチングについてのアドバイザー権を取り、投げ方、捕り方を意識して行う。	思①(観察)
まとめ 5分	○ 学習カードを記入する。 ○ まとめを行う。 ○ 次回の内容の確認し、挨拶する。	○ 体調、ケガの確認をする。 ○ 自己の振り返りを学習カードに記入する時間をとる。 ○ 本単元の内容を整理する。 ○ 次回の内容を確認する。	思②(学習カード)

◆ 生徒アンケート結果

質問	肯定的な回答
攻守などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えや考えを他者に伝えることができる。	事前 37% 事後 74%
各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問 意見の異なる場面においてもその状況に従って調和を図りながら、他者と協力して問題を解決しようとしている。	事前 63% 事後 85%

◆ 考察
本単元の実践においては、知識及び技能の習得の必然性を付与するとともに、自他の課題を発見し、自分の考えや考えを他者に伝える活動を通して、調和を図りながら他者と協力して問題を解決しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を内包させた資質・能力の向上を図った。そのため、ゲーム主体の授業を展開し、チーム内で生徒同士が話し合うアドバイザータイムを取り入れた。生徒が知識や技能を確認しながら進んでいった話し合いが円滑に行き渡ることができ、ホワイトボードで知識や技能に関するポイントの共有を促したり、授業の開始時にアドバイザータイムの視点を明示したりするなどして、生徒同士のアドバイザータイムの共有を促した。特に、本時においては、「主体的に学習に取り組む態度」を意識して、積極的に意見を出し合ったり、どのような工夫をするよいかを話し合ったりするアドバイザータイムになるよう守備位置やスローイングなどのポイントを示すなどの支援を行った。
これらにより、生徒の主体的な学びを引き出すとともに、授業の気付きを促し、話し合いの内容の質を向上させ、ねらいに沿った課題の発見や合理的な解決に結び付いたと考えられる。また、単元後の生徒アンケートの結果では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に関する質問や、「主体的に学習に取り組む態度」に関する質問の肯定的な回答の割合がそれぞれ8割まで上昇した。

主体的・対話的で深い学びの実現

単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を示した。

主な学習活動

本時の目標を達成するとともに、「焦点化した構成概念」に関連付けた「焦点化した能力・態度」を身に付けるための主な学習活動を示した。

成果と課題

単元における「持続の資質・能力」の育成について成果と課題等を考察した。

研究の内容

6 研究の内容

研究の内容 7

【実践事例1】小学校 理科を通した取組（第5学年）

八王子市立別所小学校

本校では、平成30・31年度八王子市教育委員会の指定を受け、「自他を思いやる心豊かな児童の育成」を研究主題として、特別の教科 道徳について授業研究を中心に研究を行ってきた。令和2年度においては、前年度までの研究を基礎として、「深い児童理解に根差した教師の個性あふれる学級経営の実現」を研究主題に設定し、一人一人の児童が持続可能な社会の創り手となるとともに、理科の学習過程において、「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどの問題を科学的に解決しようとする学習の充実を図る」ことを目指し、授業研究を進めてきた。

本研究では、児童の実態や「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」を踏まえ、これからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力について検討し、学校で育成を目指す「持続の資質・能力」を資質・能力の3つの柱に沿って設定した。



「持続の資質・能力」の育成につながる 各教科等において焦点化した構成概念の一覧

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学校	<ul style="list-style-type: none"> 目的や責任を自覚し、客観的、批判的に情報を捉えるための知識や技能を身に付ける。責任性 様々な情報を多面的、総合的に捉えるための知識や技能を身に付ける。多様性 他者とコミュニケーションを図りながら、協働して課題に取り組むための知識や技能を身に付ける。連携性 	<ul style="list-style-type: none"> 学びや経験から得たことを解釈して、自分の考えを形成する力を養う。公平性 他者との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする力を養う。相互性 限りある時間や資源を現実していく力を養う。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学びを活かして、社会や人生をよりよくしていこうとする態度を養う。公平性 自分の役割や将来を見つめ、自ら進んで学習を振り返りながら、よりよい学びをしていこうとする態度を養う。責任性 順応したり、調和を図ったりすることの大切さを自覚し、支え合って課題に取り組もうとする態度を養う。連携性
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 目的や責任を自覚し、客観的、批判的に情報を捉えるための知識や技能を身に付ける。責任性 様々な情報を多面的、総合的に捉えるための知識や技能を身に付ける。多様性 他者とコミュニケーションを図りながら、協働して課題に取り組むための知識や技能を身に付ける。連携性 	<ul style="list-style-type: none"> 学びや経験から得たことを解釈して、自分の考えを形成する力を養う。公平性 他者との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする力を養う。相互性 限りある時間や資源を現実していく力を養う。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学びを活かして、社会や人生をよりよくしていこうとする態度を養う。公平性 自分の役割や将来を見つめ、自ら進んで学習を振り返りながら、よりよい学びをしていこうとする態度を養う。責任性 順応したり、調和を図ったりすることの大切さを自覚し、支え合って課題に取り組もうとする態度を養う。連携性

	1 学期			2 学期			3 学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう 責任性	くふうされた表現をもとに、登場人物のしんじょうをそうぞうして語ろう 公平性		物語の全体像をとらえ、やま場の場面を語ろう 連携性			事実と意見を結びつけて書こう 多様性		
社会	未来を支える食糧生産 多様性				未来をつくり出す工業生産 公平性			国土の自然とともに生きる 公平性	
算数				面積 責任性					もうすぐ6年生 責任性
理科				雲と天気の変化 多様性	もののとけ方 相互性				電磁石のはたらき 連携性
音楽			いろいろな楽器 連携性			せんりつのもりなり合い 連携性			
図画工作			こころのうちゅう 責任性		よみがえれカーデン 有限性				
家庭			ひと針に思いを込めて 公平性					ものやお金の使い方 責任性	
体育						ハードル走 責任性		ゴール型 連携性	
外国語	自己紹介、聞いて！ 連携性								
総合的な学習の時間		始めよう自主学習の自主学習発表会 相互性				姫木ガイドをしよう 公平性			
特別活動		伝わるように構成を考えよう 有限性						6年生を送る会 相互性	
特別の教科 道徳							同じ空の下で 相互性		感動したこと、それがぼくの作品 公平性

第5学年 理科 単元名「もののとけ方」

- ◆ 単元の目標
物のとけ方の規則性を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

◆ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを理解している。 ② 物が水に溶ける量には、限界があることを理解している。 ③ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと、また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができることを理解している。 ④ 観察、実験などに関する技能を身に付けている。	① 物のとけ方について追究する中で、物のとけ方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現している。	① 物のとけ方についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

◆ 単元の指導計画と評価計画（全12時間）

○ 単元で「焦点化した構成概念」：（思考力、判断力、表現力等）【相互性】

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの実現	評価規準（評価方法）	記録
1	水に溶けた食塩のゆくえんについて問題を見だし、表現する。	○ 食塩が溶ける様子を見て話し合い、問題をノートに記述する。	未来	主体的な学び	思①（ノート）	
2	根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。	○ 食塩のゆくえんについて話し合い、仮説をノートに記述する。	伝達	主体的な学び	思①（ノート）	
3（本時）	水に溶けた食塩のゆくえんについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。	○ 解決方法を話し合い、ノートに記述する。	批判	対話的な学び	思①（ノート）	○
4	水に溶けた食塩のゆくえんについて調べ、結果を記録する。	○ 自分の解決の方法で実験し、過程や結果をノートに記録する。		対話的な学び	知④（ノート）	
5	水に溶けた物のゆくえんや水と物を合わせた重さについて理解する。	○ 複数の実験の結果から考察し、結論をノートにまとめる。		深い学び	知①（ノート）	○
6	物が水に溶ける量について解決の方法を発想し、表現する。	○ 解決方法を話し合い、ノートに記述する。	批判	主体的な学び	思①（ノート）	
7	水の量や温度によって溶ける物の量が変わることを理解する。	○ 複数の実験の結果から考察し、結論をノートにまとめる。		対話的な学び	知②（ノート）	○
8	水の温度を下げたらどうなるかについて予想や仮説を発想し、表現する。	○ 生活経験などを交流し、仮説をノートに記述する。	伝達	主体的な学び	思①（ノート）	
9	解決の方法を発想し、表現する。	○ 解決方法を話し合い、ノートに記述する。	批判	対話的な学び	思①（ノート）	○
10	水に溶けた物を取り出す方法について調べ、結果を記録する。	○ 自分の解決の方法で実験し、過程や結果をノートに記録する。		対話的な学び	知④（ノート）	
11	水に溶けた物を取り出す方法について理解する。	○ 複数の実験の結果から考察し、結論をノートにまとめる。		深い学び	知③（ノート）	○
12	物のとけ方で学んだことを生かして、製塩の流れや仕組みを見直す。	○ 製塩の流れや仕組みを見直し、ノートに記述する。		深い学び	態①（ノート）	

◆ 本時の指導案（第3時）

- 本時の目標
 - ・ 水に溶けた食塩のゆくえんについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。
- 本時で「焦点化した能力・態度」：【批判的に考える力】

時間	学習活動 □ 主な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）																									
導入 2分	○ 問題と仮説を確認する。 水に溶けた食塩は、どうなったのだろうか。 仮説① 全て水の中にあるだろう。 仮説② 一部は水の中にあり、消えたものもあるだろう。 仮説③ 全て消えてしまっただろう。 ○ 本時の目標を設定する。 みんなで意見を出し合って、おたがいの解決方法をよりよくしよう。	・ 前時に設定した問題や仮説を確認するとともに、仮説や解決の方法を見直すことに気付かせ、より具体的な本時の目標（ゴールイメージ）を児童から引き出し、児童の言葉で設定する。																										
展開 38分	○ 黒板の<表>にネームカードを貼り、互いの立場を明確にする。 □ 互いの意見を<意見カード>に記入し、仮説やよりよい解決の方法について話し合う。 【相互性】【批判的に考える力】 <表>例 <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td>方法</td> <td>蒸発</td> <td>重さ</td> <td>顕微鏡</td> <td>ラップ</td> </tr> <tr> <td>仮説</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>すべて</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <意見カード>例 ・ その仮説や解決方法が妥当か指摘する。 ・ 解決方法について①準備、②実験内容、③記録、④想定に不備がないか指摘する。 □ 話し合った内容を基に、自分の仮説やよりよい解決の方法を見直し、ノートに記述する。 【相互性】【批判的に考える力】	方法	蒸発	重さ	顕微鏡	ラップ	仮説					すべて					一部					なし					・ <表>を用いて、互いの仮説や解決の方法に基づいて話し合いができるようにする。 ・ 仮説やよりよい解決の方法が吟味し合えるよう、<意見カード>を用いて議論の活性化を図る。	思①（ノート）
方法	蒸発	重さ	顕微鏡	ラップ																								
仮説																												
すべて																												
一部																												
なし																												
まとめ 5分	○ 自分の解決の方法を振り返る。																											

《児童アンケート結果》

質問	肯定的な回答
（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問） 仮説が正しいことを、どのように確かめたらよいか考えることができる。	事前 93% 事後 100%
（各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問） 教師や友達との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする力を身に付ける。	事前 70% 事後 97%

《考察》

理科の思考力、判断力、表現力等に沿った質問項目、「持続の資質・能力」の育成に応じた質問項目のいずれも肯定的な回答をした児童の割合が増加した。このことから、「持続の資質・能力」の育成につながる単元の指導において、「焦点化した構成概念」や「焦点化した能力・態度」を設定したことは有効であったと考える。
 【相互性】に関しては、児童から「情報が多ければ考えがよくなることがある。」と意見が上がるなど、互いの意見を交流することで、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切であると気付いている様子が見られた。
 【批判的に考える力】に関しては、児童が「反対の立場からも考えないと浅い考えのままで学びが深まらない。」と発言するなど、他者の批判的な意見を客観的な情報として受け止めたり、協調的に話し合いを進めたりしながらよりよい解決方法を考えることができるようになった。

【実践事例2】小学校 外国語活動を通じた取組（第4学年）

狛江市立狛江第三小学校

開校63周年を迎えた本校では、よき伝統をさらに受け継ぎ、地域を愛し、誇りに思う子供たちを育てることができるよう、「子供ファースト（子供第一主義）」の教育活動の推進、「教職員が働きやすい職場環境の構築」の2点を学校経営の柱として掲げ、「チーム KOMA3」を合言葉に、教職員の英知を結集し、一致協力して「子供がチャレンジ意欲を高め、創造性を発揮する教育」の実現に向け取り組んでいる。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、教育課程の見直しを適切に図るとともに、校内研究において、教科等横断的な視点をもって「持続可能な社会の創りに必要な資質・能力」を育成していくことができるよう、外国語活動の授業を通して共通理解を図ってきた。

この取組を基に、教員が子供たちに「持続可能な社会の創りに必要な資質・能力」の育成を意識した授業実践を行っていくことができるようにするため、全教員が「週ごとの指導計画」に各教科等の単元（題材）と関連する構成概念を記載して意識化を図り、授業改善につなげている。



「持続の資質・能力」の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
学校	<ul style="list-style-type: none"> 多様な情報を結び付けたり、物事の背景等を多面的に捉えたりするための知識や技能を身に付ける。多様性 知識を相互に関連付けて深く理解し、他の学習や生活場面で活用できる知識や技能を身に付ける。相互性 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な情報を結び付け物事を考え表現する力 自分の思いや考えを討って協働的に学ぶ力 互いの立場を認め合 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を多面的に捉え、多様な視点からを養う。多様性 表現し合いながら、よりよい解決方法を検を養う。連携性 いながら、批判的に考える力を養う。公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中から問題を見だし、責任をもって主体的に解決しようとする態度を養う。責任性 よりよい社会の実現に向けて、自他の生命を尊重しようとする態度を養う。有限性
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を結び付けたり、物事の背景等を捉えたりするための知識や技能を身に付ける。多様性 知識を相互に関連付けて正しく理解し、他の学習や生活場面で活用できる知識や技能を身に付ける。相互性 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を結び付け力を身に付ける。 自分の思いや考えをに学ぶ力を養う。 互いのよさを認め合 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を捉え、様々な視点から表現する 表現しながら、解決方法を検討して協働的 いながら、進んで考える力を養う。公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中から問題を見だし、進んで解決しようとする態度を養う。責任性 よりよい学校生活や家庭・地域社会の実現に向けて、限りある資源を大切に、自他の考えや思いを大切にしようとする態度を養う。有限性

	1 学期			2 学期			3 学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	アップとルーズで伝える 相互性				プラタナスの木 多様性				もしものときにそなえよう 責任性
社会			ごみのしよりと利用 有限性		自然災害から命を守る 連携性			世界とつながる地いき 多様性	
算数	折れ線グラフ 多様性			式と計算 相互性				ともなう変わる量 多様性	
理科		天気と気温 多様性				すずしくなると 有限性	水のすがたと温度 相互性		
音楽			ちいきにつわる音楽に親しもう 有限性		せんりつの重なりを感じ取ろう 公平性			日本の音楽でつながろう 連携性	
図画工作		ここをつんだら 連携性			つなぐんぐん 公平性				ポーズのひみつ 有限性
体育		体づくり運動 多様性				ベースボール型ゲーム 責任性			ゴール型ゲーム 責任性
外国語活動	Hello, world! 多様性			What time is it? 多様性	What do you want? 連携性		This is my favorite place. 多様性		
総合的な学習の時間	福祉 アイマスク体験 相互性				福祉 ボッチャ体験 連携性				自分の成長を振り返ろう 有限性
特別活動			雨の日の過ごし方 責任性			スッキリおそうじ 責任性		ありがとう六年生 多様性	
特別の教科 道徳		となりのせき 公平性				全校遠足とカワセミ 責任性	世界の小学生 多様性		

第4学年 外国語活動 単元名「What do you want?」

- ◆ 単元の目標
 - 学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり要求したりして伝え合うとともに、自分の考えたオリジナルメニューを紹介する。
 - ※ 本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

◆ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「やり取り」	野菜や果物など、食材について、What do you want?や～,please.を用いて尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり答えたりして伝え合っている。	学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり要求したりして伝え合おうとしている。
「発表」	自分の考えたオリジナルメニューについて、I want ～やI like ～などを用いて話すことに慣れ親しんでいる。	自分の考えたオリジナルメニューについて相手に伝わるように工夫しながら話している。	自分の考えたオリジナルメニューについて相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。




◆ 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

○ 単元で「**焦点化した構成概念**」：(思考力、判断力、表現力等)【**連携性**】

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの実現	評価規準(評価方法)	記録
1	日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、食材を尋ねたり要求したりする表現を知り、単元の見通しをもつ。 〈自作動画〉 	○ 果物・野菜の語彙に慣れ親しむ。 ○ 教師が作成した自作動画を視聴し食材を尋ねたり要求したりする表現を知る。 【単元のゴール】 パーティーで友達に料理をふるまおう。 ○ 単元のゴールを確認し、友達に料理をふるまうために食材を買いに行くという目的意識をもつ。 ○ 既習のSDGs「17 パートナリシップで目標を達成しよう」を振り返り、友達と関わ合いながら目標を達成することへの意欲を高める。		主体的な学び		
2	果物や野菜の外国語での表現に十分に慣れ親しむとともに、友達の好きな食材を聞き、買い物計画を立てる。	○ 友達の好きな食材を聞き取り、ワークシートに記入する。 ○ ピザ、パフェを作るために自分が買う食材を整理する。		対話的な学び		
3	欲しい食材を尋ねたり要求したりする表現や音声に十分に慣れ親しむ。	○ 買い物場面で用いる表現を確認し、練習する。 ○ ピンゴゲームを通して表現に慣れ親しむ。		主体的な学び		
4 (本時)	学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり要求したりして伝え合う。	○ 店役と客役に分かれ、パフェの材料を売ったり買ったりするための表現に慣れ親しむ。	伝達	対話的な学び	話すこと [やり取り] 知思態(観察・振り返りシート)	○
5	学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり要求したりして伝え合う。	○ 店役と客役に分かれ、ピザの材料を売ったり買ったりするための表現に慣れ親しむ。 ○ 買った食材をワークシートに貼り、料理を完成させる。	伝達	対話的な学び	話すこと [やり取り] 知思態(観察・振り返りシート)	○
6	学級の友達にふるまう料理について、相手に伝わるように工夫しながら、自分の考えたオリジナルメニューを紹介する。	○ 発表の仕方を確認する。 ○ 班ごとに、自分の考えたオリジナルのパフェとピザを紹介し合う。	参加	深い学び	話すこと [発表] 知思態(観察・振り返りシート)	○

- ◆ 本時の指導案(第4時)
 - 本時の目標
 - 学級の友達にふるまう料理を作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり要求したりして伝え合う。

○ 本時で「**焦点化した能力・態度**」：【**コミュニケーションを行う力**】

時間	学習活動 □ 主な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 8分	○ 挨拶などの簡単なやり取りを行う。 ○ 英語の歌を聞きながら体を動かす。 ○ 単元のゴールを振り返り、本時のねらいを知る。 パーティーで友達に料理をふるまうためのパフェの材料を、英語で買おう。 ○ 果物の言い方を確認する。 ○ 買い物をする時のやり取りの表現を、チャンツを通して確認する。		
展開 30分	○ デモンストレーションを見て、本時の活動(お店屋さんごっこ)の流れを確認する。 ○ お店屋さんごっこのルールを確認する。 ・ 1店舗で買える食材数は1種類で最大3つまで。 ・ 客役は一方方向に動き順番に店をめぐる。 ・ 前半と後半に分かれて、客役と店員役を体験する。 ・ 時間内に、計画をしていた食材を買い物ができなかった場合は、教員の店で買うことができる。 □ お店屋さんごっこを行う。 【 連携性 】 【 コミュニケーションを行う力 】 ・ 前半・後半に分け、客役と店員役の役割を交代する。 	・ チャンツ等を通してリズムよく確認できるようにする。 ・ 教員が店員役をし、代表児童が客役をすることで、お店屋さんごっこのルールを捉えられるようにする。 ・ 前半の活動後に中間評価を行い、相手に伝わるように工夫している点を発表させ、本時の目標に沿った活動となるよう声を掛けるとともに、後半の活動に生かすことができるようにする。 	話すこと[やり取り] 知思態(観察)
まとめ 7分	○ Review Sheet に振り返りを書く。  ○ 振り返りを発表する。 ○ 次時の予告をし、挨拶をする。		話すこと[やり取り] 知思態(振り返りシート)

《**児童アンケート結果**》

質問	肯定的な回答
(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 友達が喜ぶようなメニューを考え、英語で紹介することができる。	事前 49% 事後 97%
(各学年で育成を目指す「持続的資質・能力」に関する質問) 自分の思いや考えを伝え合いながら、よりよい方法を考え、友達と協力して学習に取り組んでいる。	事前 91% 事後 94%

《**考察**》

児童が自信をもってやり取りや発表を行うことができるようにするために、第1時から第3時までは、外国語の簡単な語句や基本的な表現に音声で十分に慣れ親しませることで、知識及び技能の定着を図った。その上で、【**連携性**】を内包させた思考力、判断力、表現力等を育成するために、児童が目的をもち、既習表現を活用して考え、買い物のやり取りやオリジナルメニューの紹介を行うことができるように活動の場を設定した。このことで、児童の協働的に学ぼうとする意欲を一層高めることができ、「思考力、判断力、表現力等」の質問では、肯定的な回答が48ポイント上昇した。

また、「持続的資質・能力」の質問において、事前では肯定的な回答をした児童の割合が91%おり、事後では3ポイントの上昇が見られた。

本時及び第5時では、【**コミュニケーションを行う力**】に焦点化した学習活動を設定したことで、児童は、自分の思いや考えを表現しながら、相手に伝わるように工夫し、伝え合うことができた。

【実践事例3】小学校 社会を通した取組（第6学年）

檜原村立檜原学園檜原小学校

本校は、平成23年度より檜原中学校とともに檜原学園として小中一貫教育に取り組んでいる。
 檜原学園では、檜原村を愛し誇りに思う子供たちを育成することを目指した学習活動を「ふるさと檜原学習」と命名し、総合的な学習の時間を中心に、社会や特別の教科 道徳など、他教科等との関連を図りながら、研究を進めている。

今年度は、社会の学習において、本学園の資質・能力を育成する際に、ESDの視点から授業改善を行った。

具体的には、Society5.0や持続可能な社会について研修した。そして、「持続の資質・能力」を育成するために、単元と既習内容並びに地域の人的・物的資源等とのつながりを踏まえた効果的な学習計画について検討し、教材研究を行った。さらに、SDGsとの関連を踏まえた授業についても、全教員で取組を進めている。



「持続の資質・能力」の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学園	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報を収集したり、必要な情報を選択したり、情報を関係付けたりする知識や技能を身に付ける。 相互性 限りある資源の中で、各教科で学んだことを基に、筋道を立てて問題解決を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、解決に養う。 多様性 新たなものの創造に向けて公平に広い視野をもち、学んだことを生かして柔軟に考える力を養う。 公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 限りある資源の中で、互いのよさを生かそうとする態度を養う。 有限性 協働して問題解決しようとする態度を養う。 連携性 自ら進んで行動し、主体的に考えたり、判断したり、表現したりしようとする態度を養う。 責任性
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて情報を収集したり、情報を分類したり、関係付けたりして選択、活用する知識や技能を身に付ける。 相互性 限りある資源の中で、筋道立てて、より妥当な考えをつくりだすために必要な知識や技能を身に付ける。 有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、解決に選択・判断したことを表現する力、議論する力を養う。 多様性 公平で独創的に発想や構想をして、柔軟に考える力を養う。 公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 限りある資源の中で、互いのよさを生かそうとする態度を養う。 有限性 協働して問題解決しようとする態度を養う。 連携性 自ら進んで行動し、困難があってもくじけずに物事をやり抜こうとする態度を養う。 責任性

	1学期			2学期			3学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語			私たちにできること 責任性			みんなで楽しく過ごすために 連携性	海の命 相互性		
社会	縄文の村から古墳の国へ 有限性			武士の世の中へ 相互性					世界の未来と日本の役割 責任性
算数					円の面積 多様性				
理科			生き物どうしの関わり 有限性				私たちの生活と電気 有限性		
音楽						色々な和音の響きを感じ取ろう 連携性			
図画工作		想像の翼を広げて 多様性							
家庭					献立を工夫して 多様性				持続可能な社会を生きる 有限性
体育		短距離・リレー 公平性				ゴール型 連携性			
外国語	Let's be friends. 相互性								
総合的な学習の時間						未来に向けて 責任性			檜原の森林について調べよう 有限性
特別活動		係や当番を決めよう 公平性							
特別の教科 道徳	命のアサガオ 有限性							わたしのせいじゃない 公平性	

◆ 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。

◆ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きなどについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配が広がったことを理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きなどに着目して、問いを見だし、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配の広がりについて考え表現している。 ② 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	① 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。



◆ 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

○ 単元で「焦点化した構成概念」： **（知識及び技能）【相互性】**

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの実現	評価規準（評価方法）	記録
1	武士の生活の様子について話し合い、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	○ 武士のやかたの様子と貴族の様子を基に、武士の生活の様子、武士と貴族の違いなどについて考え、話し合う。 ○ 学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。		主体的な学び	思①(ノート) 態①(ノート)	○
学習問題 武士の登場によって、世の中はどのように変わり、武士は、どのような政治を行っていったのだろうか。						
2	武士の政治の始まりと平氏の政治について理解する。	○ 平清盛の活躍について年表にまとめて調べ、武士の政治の始まりと平氏がどのような政治によって武士を従えていったのかを調べる。	協力	対話的な学び	知①(ノート)	
3	源平の戦いで、平氏を破った源氏が大きな力をもつようになったことを理解する。	○ 平清盛の政治がその後どうなっていたのか、源平の戦いによる源義経の活躍について調べ、鎌倉に幕府が開かれるまでの経緯を調べる。	関連	対話的な学び	知①(ノート)	
4 (本時)	源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治の仕組みを作り上げたことを理解する。	○ 鎌倉の地図や御恩と奉公の関係図、政子の訴えなどを基にして、源頼朝が武士たちをどのように従えていったのかを調べる。	伝達	対話的な学び	知①(ノート)	○
5	鎌倉幕府が元との戦いで全国に力をもってきたことや幕府の衰退について考察する。	○ 元との戦いの様子を絵図や写真などを基に調べ、この戦いが鎌倉幕府にどのような影響をおよぼしたのかを調べる。		対話的な学び	思①(ノート)	
6	学習問題について調べてきたことを整理し、自分の考えを4コマまんがで表現する。	○ 武士の発生から元寇までの世の中について、貴族の暮らしと武士の暮らしの違いや平氏の政治と源氏の政治の違いなど、複数の視点で整理する。 ○ 関係する人物の台詞を考え、4コマまんがを完成させ、互いに発表し合う。	関連	深い学び	知②(ノート) 思②(ノート)	○

◆ 本時の指導案（第4時）

- 本時の目標
 - ・ 源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治の仕組みを作り上げたことを理解する。
- 本時で「焦点化した能力・態度」： **【コミュニケーションを行う力】**

時間	学習活動 □ 主な学習活動	指導上の留意事項・配慮事項 ■ 資料	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 本時の学習内容の確認 ・ 前時までの学習から本時で調べる内容を確認する。 源頼朝は、どのようにして武士を従えていったのだろう。 ・ 平清盛について学んだことを思い出し、どのように調べるかを考える。	・ 児童が見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ・ 場所、政治について調べることを確認する。	
展開 30分	□ 鎌倉は源氏にゆかりがあり山に囲まれて守りにも優れた地形であることを調べる。 （【相互性】【コミュニケーションを行う力】） ・ 鎌倉の地図からなぜ源頼朝が鎌倉に幕府を開いたのかを考え、資料を基に調べる。 ・ 源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を共有する。 □ 御恩と奉公の関係により、源頼朝が武士を従えたことを調べる。 （【相互性】【コミュニケーションを行う力】） ・ 資料から源頼朝がどのような政治によって武士を従えていったのかを調べる。 ・ 調べたことをペアやグループで伝え合い、全体で共有する。 	■ 資料：教科書の鎌倉の地図 ・ 自分の気付かなかった予想をノートに書き、友達と学ぶことのよさを感じている児童に声を掛け、価値付ける。 ■ 資料：鎌倉の地図と説明 ■ 資料：教科書・資料集の御恩と奉公の説明図や文章 ・ 場所や政治の仕組み、御恩と奉公といった幕府と武士の相互の関係に気付いている児童に声を掛け、価値付ける。	
まとめ 10分	○ 源頼朝が武士による政治の仕組みを作り上げたことを理解する。 ・ 源頼朝がどのようにして武士を従えたのかをまとめる。 ・ 源頼朝の政治は、その後どうなっていたのかを考える。 ・ 御恩と奉公の関係により、幕府の支配力が強くなっていったことを共有する。 	■ 資料：教科書・資料集の北条雅子の訴えに関する文章 ・ 児童が気付いていない場合、平清盛がどのようにして武士を従えていったのかと比べて考えさせる。	知①(ノート)

《児童アンケート結果》

質問	肯定的な回答
（教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問） 武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配が広がったことが分かる資料を手掛かりに、調べて読み取ったことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	事前 13% 事後 100%
（各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問） 資料などで情報を集めたり、グループ分けをしたり、関連付けたりして、情報を選び、活用するために必要な事を知っている。また、それらを実行することができる。	事前 38% 事後 88%

《考察》

【相互性】を内包させた知識及び技能を育成するために、本時では、源頼朝がどのようにして武士を従えたのかを調べ、調べたことをまとめたノートをペアやグループで互いに見合い、必要な情報を共有する活動を設定した。「一の谷の戦いのときと似ている。」「平氏と比べると全然違う。」との既習事項を基に考える児童の姿や「幕府は武士に領地を与え、武士は幕府のために戦うという関係が強い。」と調べた情報を関係付けて考える児童の姿が見られた。
知識及び技能の質問では肯定的な回答の割合が13%から100%と大幅に増加した。持続の資質・能力の質問では肯定的な回答の割合が88%まで増加した。また、どちらの質問でも「思わない」と回答した児童は、ともに0名に減少した。
本時では、「焦点化した能力・態度」を**【コミュニケーションを行う力】**と設定し、ペアで伝え合う活動を取り入れ、調べたことを比較したり関連付けたりしたことにより、持続の資質・能力の育成につながったと考えられる。

中学校 社会を通した取組 (第7学年)

檜原村立檜原学園檜原中学校

本校では、今まで、新学習指導要領に向けた指導の在り方や評価方法について研修を積み重ねてきた。生徒には「檜原村の未来を考える力」を育む教育を、小学校と連携して全教科で取り組んでいる。生徒自身が、今まで学んだことを通して、故郷檜原村の未来を考えられる力を身に付けるとともに、自分の将来についても考えチャレンジする力を身に付けられるように、総合的な学習の時間を中心に各教科等で指導を行っている。

本研究では、社会の授業を中心に研究を進めており、同時に各教科等において指導案を作成し、授業を実践してきた。その際、授業の改善を行うに当たり、課題や効果について教科ごとに検証してきた。



「持続の資質・能力」の育成につながる各

教科等において焦点化した構成概念の一覧

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学園	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報を収集したり、必要な情報を選択したり、情報を関係付けたりする知識や技能を身に付ける。相互性 限りある資源の中で、各教科等で学んだことを基に、筋道を立てて問題解決を行うために必要な知識や技能を身に付ける。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、解決に向かう。多様性 新たなものの創造に向きかして柔軟に考える力 公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 限りある資源の中で、互いのよさを生かそうとする態度を養う。有限性 協働して問題解決しようとする態度を養う。連携性 自ら進んで行動し、主体的に考えたり、判断したり、表現したりしようとする態度を養う。責任性
第7学年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報を収集したり、必要な情報を選択したりする知識や技能を身に付ける。相互性 限りある資源の中で、各教科等で学んだことを基に、筋道を立てて問題解決を行うために必要な知識や技能を身に付ける。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を基に、目的を考え、表現する力を養う。多様性 新たなものの創造に向きかして柔軟に考える力 公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 限りある資源の中で、一人一人が自らのよさや可能性を發揮しようとする態度を養う。有限性 協働して問題解決しようとする態度を養う。連携性 自ら進んで行動し、あきらめずに取り組もうとする態度を養う。責任性

	1 学期			2 学期			3 学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	ちよつと立ち止まって 相互性						少年の日の思い出 相互性		
社会	世界・日本の地域構成 有限性				北アメリカ州 多様性		中世の日本 有限性		
数学				方程式 相互性	平面図形 多様性				データの分析と活用 責任性
理科			生物の世界 有限性			物質のすがた 責任性			大地の変化 有限性
音楽			自然な声の出し方で歌おう 連携性			曲の形式を生かして歌おう 連携性			
美術		デザイン 公平性		色の学習 相互性				粘土・彫塑 多様性	
保健体育			ネット型 責任性		身体機能の発達 多様性				スポーツの多様性 責任性
技術・家庭(技術分野)			材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 有限性			材料と加工の技術による問題解決 責任性	社会の発展と材料と加工の技術 有限性		
技術・家庭(家庭分野)	健康と食生活 相互性				何をどれだけ食べたらよいか 多様性				
外国語	1-Bの生徒たち 相互性							A Trip to Finland 多様性	
総合的な学習の時間		職業人講話 多様性							文化創造 連携性
特別活動		学校における多様な集団の生活向上 公平性							社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 責任性
特別の教科 道徳		さかなのなみだ 公平性				二人の約束 責任性	自分だけ「余り」になってしまう… 相互性		

◆ 単元の目標

- 北アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。また、北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解することができる。
- 北アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- 北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとすることができる。

◆ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 北アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ② 北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解している。	① 北アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	① 北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆ 単元の指導計画と評価計画（全6時間）



- 単元で「焦点化した構成概念」：**（思考力、判断力、表現力等）【多様性】**

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの実現	評価規準（評価方法）	記録
1	北アメリカ州の地域的特色を探り学習課題を設定し、関心をもって課題を解決しようとする。	○ 北アメリカ州の国々のGDP、アメリカ合衆国を代表する企業と私たちの生活との関係を表す資料から学習課題を設定する。 ○ 白地図を使い、北アメリカ州の地形や気候の特色を読み取る。		主体的な学び	態①(ワークシート)	
学習課題 北アメリカ州の経済は、どのように発展し、世界にどのような影響を与えているのだろうか。						
2	北アメリカ州の民族構成を、アメリカ合衆国を中心に歴史的な背景から理解する。	○ 北アメリカ州の民族構成や移民の歴史についてワークシートにまとめる。		主体的な学び	知②(ワークシート)	○
3 (本時)	アメリカ合衆国の農業の特色を日本の農業と比較して考察し、自分の考えを説明する。	○ アメリカ合衆国の農業の特色を資料から考察する。 ○ 各自の考えを基に班で話し合い、自分の考えをワークシートにまとめる。	協力	対話的な学び	思①(ワークシート)	○
4	アメリカ合衆国の工業の特色を考察し、自分の考えを説明する。	○ アメリカ合衆国の工業の特色を資料から考察する。 ○ 各自の考えを基に班で話し合い、自分の考えをワークシートにまとめる。	協力	対話的な学び	思①(ワークシート)	
5	北アメリカ州の産業や文化が世界に与える影響について理解し、北アメリカ州が発信する文化について意欲的に追究しようとする。	○ 北アメリカ州の産業や文化が世界に与える影響についてワークシートにまとめる。 ○ 北アメリカ州が発信する文化についてレポートにまとめる。		深い学び	知①(ワークシート) 態①(ワークシート)	○
6	アメリカ合衆国の人々の生活や文化の特徴が世界へ与える影響を考察する。	○ 自然環境・民族・農業・工業などを背景に誕生した大量生産・大量消費社会が世界に与える影響を経済や環境などの視点から考察し、自分の考えをワークシートにまとめる。	関連	深い学び	知①(ワークシート) 思①(ワークシート)	○

◆ 本時の指導案（第3時）

- 本時の目標
 - アメリカ合衆国の農業の特色を日本の農業と比較して考察し、自分の考えを説明する。

○ 本時で「焦点化した能力・態度」：**【他者と協力する態度】**

時間	学習活動 □ 主な学習活動	指導上の留意点・配慮事項 ■ 資料	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容と学習課題を把握する。 アメリカ合衆国の農業は日本と比べてどんな特色があるのだろうか。	・ プレゼンテーションソフトを活用する。	
展開① 15分	○ アメリカ合衆国の農業は日本とどんな違いがあるのか予想し、自分の考えをワークシートにまとめる。 ○ 各班で指定されたA、Bのいずれかの2種類の資料を読み取り、読み取ったことから考えられるアメリカ合衆国の農業の特色をワークシートにまとめる。 	・ 日本の農業については、プレゼンテーションソフトを活用しながら説明する。 ■ 資料 A-1…気候による違いの資料 A-2…地形による違いの資料 B-1…統計資料 B-2…写真資料	思① (ワークシート)
展開② 20分	□ 再編成された班で、A、Bそれぞれの立場の考えを班で説明し合い、違う立場の考えをワークシートにまとめる。 【多様性】【他者と協力する態度】 ○ グループでまとめたアメリカ合衆国の農業の特徴について、ホワイトボードに記入し、発表する。また、他の班の発表やフィードバックを聞き、新たな気付きなどをワークシートにメモを取る。 	・ 様々な情報を基に話し合いができるようにする。 ・ 生徒から挙がった意見を板書し、視覚化する。 ・ 1グループ4人とする。話し合いは司会を指定し、自主的に行わせる。 ・ A、Bの両方の立場の生徒が混在するように指示しグループを再編成する。また、違う立場の考えをワークシートにまとめるように指示する。	思① (ワークシート)
まとめ 10分	○ 本時の目標について振り返る。		

《生徒アンケート結果》

質問	肯定的な回答
（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問） 北アメリカ州における地球的課題の要因や影響について、地域の広がりや結びつきなどに着目して、それぞれの地域的特色と関連付けて、自然環境・人々の生活・産業など様々な視点で、自分の考えをまとめることができる。	事前 14% 事後 29%
（各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問） 資料などから集めた情報を基に、課題を見付け、解決のために様々な視点から考え、自分の考えをまとめることができる。	事前 0% 事後 57%

《考察》

【多様性】を内包させた思考力、判断力、表現力等を育成するために、本時では、「焦点化した能力・態度」を**【他者と協力する態度】**と設定し、アメリカ合衆国の農業の特色を日本の農業と比較したり、様々な視点から自分の考えを説明し、話し合ったりする活動を設定した。
「アメリカの農業は、日本と比べたら何でも大規模だ。」「その土地の気候によっていろいろな農業がある。」など、資料の写真やデータの数値に着目して、アメリカ合衆国の農業について考察している生徒の姿が見られた。思考力、判断力、表現力等の質問では肯定的な回答の割合が14%から29%に増加したが、十分に伸びていないことが分かった。「持続の資質・能力」の質問では肯定的な回答の割合が0%から57%に増加した。また、どちらの質問でも「思わない」と回答した生徒は、ともに0名に減少した。
構成概念を内包させた資質・能力は、単元の中で育むとともに、生徒の発達段階に応じて細かく指導内容や指導方法を改善していくことが大切であることが分かった。

【実践事例4】中学校 保健体育（体育分野）を通じた取組

昭島市立瑞雲中学校

本校は、平成28～30年度の昭島市小中一貫教育モデル校として、これからの時代に求められる変化の激しい社会を生き抜く力の育成を目指し、「つなぐ、そろえる、つらぬく」のキーワードのもと、学区の小学校2校と連携して小中9年間を見通したカリキュラムの作成や小中一貫教育の必要性、課題についての研究を進めてきた。

（第1学年）

今年度は、これまでの研究成果を生かしながら、さらに「主体的・対話的で深い学びの実現」や、「持続可能な社会の実現を目指した教育活動」の推進を目指し、ESD及びSDGsの視点に立った教育計画を作成し、授業実践を行ってきた。「持続可能な社会の創り手」の育成については、必要な資質・能力を学校及び各学年で設定し、更に教育活動全体で横断的に取り組んできた。また、各教科等において「焦点化した構成概念」や「焦点化した能力・態度」については、校内研修を通して全教員で共通理解を図った。本研究では、保健体育の授業における成果と課題を検証することを通して、各教科等での授業改善につなげている。



「持続の資質・能力」の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域や社会・世界に関わる様々な事物・現象を多面的に捉え、問題を見いだすための知識や技能を身に付ける。多様性 ○ 様々な事物・現象を相互に関係付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。相互性 ○ 限りがある資源等の中で、解決可能な計画を立てるための知識や技能を身に付ける。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事物・現象を互いの解決方法を考えたり ○ 問題の解決方法を主体的に判断する力を養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を提案する力を養う。相互性 公平性 連携性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら設定した計画に責任をもって、自主的・自発的に取り組む態度を養う。責任性 ○ 地域や社会・世界に関わる様々な問題の解決に向けて限りがある資源等の中で、解決可能な計画を立てようとする態度を養う。有限性
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な事物・現象を多面的に捉え、問題を見いだすための知識や技能を身に付ける。多様性 ○ 事柄について相互に関係付けて問題の解決方法を考えるための知識や技能を身に付ける。相互性 ○ 限りがある資源等の中で、自ら計画を立てるための知識や技能を身に付ける。有限性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題の関係性や問題の解決方法を公平に養う。 ○ 他者と協力し、問題の解決策を考える力を養う。相互性 公平性 連携性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団で決定した計画に責任をもって、粘り強く取り組む態度を養う。責任性 ○ 学校や学級など身の回りに関わる様々な問題について、限りがある資源等の中で解決方法を考えようとする態度を養う。有限性

	1 学期			2 学期			3 学期		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	花曇りの向こう 多様性			今に生きる言葉 有限性			さまざまな表現技法 有限性		
社会					アフリカ州 公平性		中世までの日本 相互性		
数学					量の変化と比例・反比例 相互性			空間の図形 連携性	
理科									大地の変化 有限性
音楽		音楽の特徴と情景の想像 公平性		楽典：音楽の構成要素1 相互性					
美術				和の伝統文様について 多様性					
保健体育					ベースボール型 連携性	ハードル走 責任性		現代的なリズムのダンス 公平性	
技術・家庭（技術分野）	材料と加工法 相互性		製作品の設計 有限性				住生活と自立 多様性		
技術・家庭（家庭分野）		私の成長と家族・地域 連携性							
外国語						Junior High School in the U.S. 有限性			A Letter from Australia 責任性
総合的な学習の時間			フィールドワーク 責任性						
特別活動									
特別の教科 道徳	全てがリオでかみあった 有限性				思いやりの日々 相互性			古都の雅、葉子の心 相互性	

第1年 保健体育（体育分野）単元名 「ベースボール型（ソフトボール）」

- ◆ 単元の目標
 - ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。
 - 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
 - ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて言ったり書き出したりしている。 ○技能 ① 基本的なバット操作と走塁での攻撃をすることができる。 ② ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付けている。	① ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとしている。 ② 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ③ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

- ◆ 単元の指導計画と評価計画（全9時間）
 - 単元で「**焦点化した構成概念**」：（思考力、判断力、表現力等）【**連携性**】

時	目標	学習活動	焦点化した能力・態度	主体的・対話的で深い学びの実現	評価規準（評価方法）	記録
1	特性や成り立ち、歴史や技能の名称などを理解する。必要な技能を知る。	○ ベースボール型の特性とソフトボールの歴史についてのオリエンテーションを行う。 ○ ティーボールゲームに取り組む。		主体的な学び	知①（学習カード） 態①（観察）	○
2（本時）	スローイングとキャッチについてのポイントを中心に、仲間のよさや課題を伝え合う。	○ グローブ操作やスローイングに注意しながらキャッチボールをする。 ○ フォースプレーゲームに取り組む。	批判	対話的な学び	思①（観察、学習カード）	
3	バッティングについてのポイントを中心に、仲間のよさや課題を伝え合う。	○ バット操作に注意しながらティーバッティングをする。 ○ フォースプレーゲームに取り組む。	批判	対話的な学び	思①（観察、学習カード）	
4	個人技能を高めて、連携した攻撃の仕方を教え合う。	○ ティーノックを行う。 ○ タッチプレーゲームに取り組む。	協力	対話的な学び	思②（学習カード） 態③（観察）	
5	ルールを確認して、状況に応じてどのように動いたらよいか考え、話し合いに参加する。	○ ランナーケースの確認を行う。 ○ フォースアウトとタッチアウトの区別に注意しながらゲームに取り組む。		対話的な学び	態②（観察、学習カード）	
6	ポイントを意識してボール操作を行うことができる。役割を決めて作戦を考え、話し合いに参加する。	○ 実技テストを実施する。 ○ 打順や守備位置など役割を決めるミーティングを行う。		対話的な学び	技②（実技テスト） 態②（学習カード）	
7	バット操作と走塁での攻撃をすることができる。それぞれのよさを生かし、チームに合った作戦を考える。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	伝達	深い学び	思③（学習カード） 技①（記録）	
8	バット操作と走塁での攻撃をすることができる。それぞれのよさを生かし、チームに合った作戦を考える。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	伝達	深い学び	思③（学習カード） 技①（記録）	○
9	バット操作と走塁での攻撃をすることができる。それぞれのよさを生かし、チームに合った作戦を考える。	○ チームで作戦を考え、協力してゲームを行う。	伝達	深い学び	思③（学習カード） 技①（記録）	○

- ◆ 本時の指導案（第2時）
 - 本時の目標
 - スローイングとキャッチについてのポイントを中心に、仲間のよさや課題を伝え合う。
 - 本時で「**焦点化した能力・態度**」：【**批判的に考える力**】

時間	学習活動 ○ 学習活動 □ 主な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 15分	○ 整列、挨拶、出席確認、準備運動を行う。 ○ ベースランニングをする。 ○ 本時を確認する。 スローイングとキャッチについてのポイントを中心に、仲間のよさや課題を伝え合う。 ○ キャッチボールを行う。 ・ 捕り方と投げ方のポイントを意識して行う。	・ けがをしないように、準備運動を確実に行うようにし、生徒の健康観察を行う。 ・ 走り方のアドバイスをを行う。 ・ 目標と授業の流れを伝える。	
展開 30分	□ フォースプレーゲームに取り組む。 【 連携性 】【 批判的に考える力 】 ・ 本塁から投げて走る。 ・ ボールを持った選手よりも先にコーンを倒した塁が得点になる。 ・ 両チーム1回ずつ攻防を終えた後のアドバイスタイムで振り返りや次の攻防に向けて話し合いをする。 ・ 投げ方、捕り方を意識して行う。	・ アドバイスをを行う。 ・ ベースにコーンを使って、どちらが先にコーンを倒したか分かりやすいようにする（接触防止も）。 ・ 守備でどこに投げたらよいか声を掛け合うように支援する。 ・ アドバイスタイムでは、スローイングやキャッチについてのアドバイス等を行ってもよいことを伝える。	思①（観察）
まとめ 5分	○ 学習カードを記入する。 ○ まとめを行う。 ○ 次回の内容の確認し、挨拶する。	・ 体調、ケガの確認をする。 ・ 自己の振り返りを学習カードに記入する時間をつくる。 ・ 本単元の内容を整理する。 ・ 次回の内容を確認する。	思①（学習カード）

《生徒アンケート結果》

質問	肯定的な回答
（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問） 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。	事前 37% 事後 74%
（各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問） 意見の異なる場面においてもその状況に従って調和を図りながら、他者と協力して問題を解決しようとしている。	事前 63% 事後 85%

《考察》

本単元の実施においては、知識及び技能の習得の必然性を気付かせるとともに、自他の課題を発見し、自分の考えたことを伝える活動を通して、調和を図りながら他者と協力して問題を解決しようとする【**連携性**】を内包させた資質・能力の向上を図った。そのため、ゲーム主体の授業を展開し、チーム内で生徒同士が話し合うアドバイスタイムを取り入れた。生徒が知識や技能を確認しながらねらいに沿った話し合いが円滑にできるように、ホワイトボードで知識や技能に関するポイントの写真を掲示したり、授業の開始時にアドバイスタイムの視点を明示したりするなどして、生徒同士のアドバイスが焦点化できるようにした。特に、本時においては、【**批判的に考える力**】を意識して、積極的に意見を出し合ったり、どのような工夫をするよいかを話し合ったりするアドバイスタイムになるよう守備位置やスローイングなどのポイントを示すなどの支援を行った。

これらのことにより、生徒の主体性を引き出すとともに、生徒の気付きを促し、話し合いの内容の質を向上させ、ねらいに沿った課題の発見や合理的な解決に結び付いたと考えられる。また、単元後の生徒アンケートの結果では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に関する質問や、【**連携性**】を重視した「持続の資質・能力」に関する質問の肯定的な回答の割合がそれぞれ約8割まで上昇した。

<参考> 児童・生徒アンケート

- (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた質問
- (2) 教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問
- (3) 教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問
- (4) 教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問
- (5) 各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」に関する質問

【実践事例1】八王子市立別所小学校 第5学年 理科 単元名「もののとけ方」

質問	
(1)	この単元（もののとけ方）で学んだことは、生活や社会に役立つと思う。
(2)	もののとけ方の規則性について理解するとともに、もののとけ方の規則性を調べることができる。
(3)	仮説が正しいことを、どのように確かめたらよいか考えることができる。
(4)	もののとけ方の規則性について進んで調べ、友達と関わりながら、粘り強く問題解決しようとしている。
(5)	教師や友達との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする力を身に付ける。

【実践事例2】狛江市立狛江第三小学校 第4学年 外国語活動 単元名「What do you want?」

質問	
(1)	英語で自分の思いや考えを伝え合う表現を学習することは、生活や社会で役に立つと思う。
(2)	野菜や果物について、ほしいものを聞いたり答えたりする表現を知っている。
(3)	友達が喜ぶようなメニューを考え、英語で紹介することができる。
(4)	外国語活動の学習で、自分の思いや考えが友達に伝わるように工夫しながら、取り組んでいる。
(5)	自分の思いや考えを伝え合いながら、よりよい方法を考え、友達と協力して学習に取り組んでいる。

【実践事例3】檜原村立檜原学園檜原小学校 第6学年 社会 単元名「武士の世の中へ」

質問	
(1)	本単元（武士が登場し武士が政治を始める時代）の学習は、生活や社会で役立つと思う。
(2)	武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配が広がったことが分かる資料を手掛かりに、調べて読み取ったことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。
(3)	武士による政治が始まったところの様子について、資料などで調べたことを、関連付けたりまとめたりしながら、自分の考えを文章で書いたり、発表したりすることができる。
(4)	武士同士の戦いや武士による政治の仕組みが分かる資料を手がかりに、武士の登場によって世の中はどのように変わり、武士がどのような政治を行ったのかを予想し、問題を解決しようとしている。
(5)	資料などで情報を集めたり、グループ分けをしたり、関連付けたりして、情報を選び、活用するために必要なことを知っている。また、それらを実行することができる。

檜原村立檜原学園檜原中学校 第7学年 社会 単元名「北アメリカ州」

質問	
(1)	本単元（北アメリカ州）の学習は、生活や社会で役立つと思う。
(2)	北アメリカ州における地球的課題は、それぞれの地域の特色によって、現れ方が異なることを理解している。また北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の特色を知識として身に付けている。
(3)	北アメリカ州における地球的課題の要因や影響について、地域の広がりや結びつきなどに着目して、それぞれの地域的特色と関連付けて、自然環境・人々の生活・産業など様々な視点で、自分の考えをまとめることができる。
(4)	北アメリカ州について、よりよい社会の実現を目指してそこで見られる課題を主体的に追究している。
(5)	資料などから集めた情報を基に、課題を見付け、解決のために様々な視点から考え、自分の考えをまとめることができる。

【実践事例4】昭島市立瑞雲中学校 第1学年 保健体育（体育分野） 単元名「ベースボール型（ソフトボール）」

質問	
(1)	本単元（ソフトボール）の学習は、生活や社会で役立つと思う。
(2)	ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、ソフトボールでは、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。
(3)	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
(4)	ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。
(5)	意見の異なる場面においてもその状況に従って調和を図りながら、他者と協力して問題を解決しようとしている。

研究のまとめ

本研究において、「持続の資質・能力」の育成をし、目指す子供像にせまる上で、本研究に携わった5校の実践事例から、次の4つの視点が大切であることが明らかになった。



1 学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」を設定すること。

学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」を3つの柱に沿って設定する際に、「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」等を踏まえて、各柱にどの構成概念（例）を重視するかを検討し、「重視する構成概念」として位置付けた。また、6つの「重視する構成概念」が全て位置付けられるように留意した。これらのことにより、学校及び各学年で育成を目指す「持続の資質・能力」が具体的に設定することができた。



2 「持続の資質・能力」を育成するカリキュラム・マネジメントを推進すること。

各教科等の単元（題材）において、どの「重視する構成概念」を焦点化するかを検討し、「焦点化した構成概念」として位置付けた。また、「持続の資質・能力」の3つの柱に沿って、「焦点化した構成概念」を各教科等の単元（題材）の目標や内容等に内包させて設定し、学年ごとの「『持続の資質・能力』の育成につながる各教科等において焦点化した構成概念の一覧」として作成した。これらのことにより、計画的・組織的に教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントの推進を図るとともに、各教科等の単元指導計画等と関係付けることができ、「各学年で育成を目指す資質・能力」を育むことができた。



3 「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の指導計画を設定すること。

単元（題材）の指導計画を作成する際に、「焦点化した構成概念」に応じた「持続の資質・能力」の柱を設定した時間において、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」のどの能力・態度（例）を踏まえた学習活動を設定するのかを焦点化し、「焦点化した能力・態度」として位置付けた。また、年間を通して、「焦点化した構成概念」に対して、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」の7つ全てを設定できるようにした。これらのことにより、「焦点化した能力・態度」を踏まえた学習活動が明確になり、その活動に取り組むことで、持続可能な社会づくりの課題を解決するために必要な能力や態度を身に付けることができた。



4 「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の学習評価を設定すること。

「持続の資質・能力」の育成につながる単元（題材）の指導計画に沿って、その教科等の目標に準拠した評価を行うことで、目標や内容等に内包させた「持続の資質・能力」の育成を評価した。また、教師の授業観察や児童・生徒のワークシート等による評価と、単元（題材）前後に児童・生徒アンケートによる評価を合わせて行った。これらのことにより、教科等の目標に準拠した評価を行うことで、「持続の資質・能力」の育成の評価とすることができた。



教科の特性に沿った ESD の在り方

東京大学大学院教育学研究科 准教授 北村 友人

今年度の研究実践校における取組を概観すると、いずれも充実した教育実践を行い、優れた成果を上げておりと評価できる。それらの実践事例を通して、教科学習の中で ESD を推進することの利点と留意点について、小論では考えてみたい。



ESD の考え方を象徴する「つなげて、広げる」という表現がある。ここで言う「つながり」には、「教材のつながり、人のつながり、能力・態度のつながり」といった多様なものが含まれる(国立教育政策研究所、2012)¹。ESD を実践することで、児童・生徒は、教科内の異なる単元間、そして、教科間を横断する学習を通して、理解が深まったり、新たな視点を獲得したりすることが可能になる。また、そうした教科内・教科間の広がりに加えて、「持続可能性」の概念を構成する環境・経済・社会といった諸領域にまたがる課題を設定することで、単元間・教科間の関連性をより明確に示すことができる。これが「教材のつながり」である。



また、このような ESD の基礎となる考え方にに基づき、課題発見・問題解決型の学びを、より体験的・実践的な学習法を取り入れながら行うことが求められている。そうした学習過程の中で、他の児童・生徒と協働したり、互いの意見や考えを交わしたりすることによって、「人とのつながり」が深められる。そして、このような学びを通して、「確かな学力」と「豊かな人間性」といった言葉で表現される多様な能力・資質を育み、それらを用いて行動すること(=「能力・態度のつながり」)が目指されている。

今年度の研究実践では、これらの「つながり」を大切にしながら、「持続可能な社会づくりの構成概念」(多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性)の中から単元(題材)ごとに重視する構成概念を精選し、焦点化した²。ただし、ここで留意すべきことは、各単元(各題材)で「焦点化した構成概念」を一つ選んではいるが、そのことは他の構成概念を軽視するという決意ではない。そもそも、ESD の基本的な考え方として、6つの構成概念を組み合わせて教育内容を練り上げ、実践していくことが肝要であり、今回の研究実践でもその基本は着実に踏襲されていたと考える。その上で、当該の単元(題材)での「ねらい」をより明確化するために、「焦点化した構成概念」を設定したのである。

今年度の各校の取組を概観すると、こうした ESD のアプローチを、教科の特性に沿って導入したことが理解できる。

第一に、各教科で身に付けるべき基礎的な知識や技能を確実に習得した上で、それらを既習事項と関連付けたり、資料・データの解釈を行う際に活用したり、さらには、外国語をより実践的な場面で運用したりすることを通して、教科内容をより深く学ぶことが目指された。



¹ こうした「つながり」は、「教材(学習課題、学習内容)を内容的・空間的・時間的につなげること、学習者同士、学習者との立場・世代の人々、学習者と地域・社会などをつなげること、身に付けた能力や態度を具体的な行動に移し、実践につなげること」(国立教育政策研究所、2012、10頁)と説明されている。

² 「持続可能な社会づくり」に関連する概念を、(1)人を取り巻く環境(自然・文化・社会・経済など)に関する概念と、(2)人(集団・地域・社会・国など)の意思や行動に関する概念の二つに大別した上で、①多種多様な要素からなる視点、②互いに作用し合う視点、③ある方向へ変化する視点、から整理したものが、6つの構成概念である(国立教育政策研究所、2012、5頁)。



第二に、学びのスタイルは、ペア・ワークであったり、グループ学習であったりと多様であるが、協働的・対話的な学びを通して、多様な知識・考え・態度を共有することが重視された。例えば、歴史的な出来事について知る際にも、科学的な事物・現象を理解する際にも、さらには、体育の実技において互いの動きに関する「アドバイス・タイム」を設けることでも、多角的な視点から検討したり、異なる意見を交わし合ったりすることの重要性が強調された。

第三に、「問い」を立てることの重要性が、様々な場面で意識されていたと推察できる。理科の実験で仮説を検証することや、「どのように武士による政治が始まったのか?」を理解するための歴史学習

などは、明確に「問い」が立てられていた授業である。また、北アメリカのことを理解するために、日本と比較しながら考えさせるといった地理の授業も、国際比較を通して子供たちがそれぞれの「問い」を立てることを促していたことがわかる。「問い」を立てるという作業は、課題発見・問題解決型の学びを促す ESD において、非常に重要なことである。

第四に、上述のように協働的・対話的な学びを重視していることから、「豊かな人間性」につながる多様な学習場面が見られたであろうと想像できる。例えば、自分の考えや思いを外国語で伝えるという場面で、うまく表現できない子を周りの子供たちが寛容に受け容れたり、ソフトボールの試合でフェアプレイの精神を実践したりする中で、育まれたであろう。

以上のように、いずれの実践事例も、それぞれの教科の特性を活かした取組であった、と高く評価したい。ここで挙げた4つの特徴は、教科学習の中で ESD を推進することの利点を表している。

その一方、一つ疑問も生じたので、留意点としてここで触れておきたい。今年度のいずれの研究実践でも協働的・対話的な学びの重要性が強調されているが、多様な意見を聞くことが、場合によっては間違った判断を導く可能性もあるといったことを想定しながら、教師たちは子供たちと接したであろうか?

例えば、理科の授業において、大勢の児童・生徒が「正解」と考える答えが、常に科学的な現象を最もよく説明するとは限らない。同様のことは、他の教科にも起こり得る。例えば、歴史や地理などに関する調べもの学習をした際に、ある子がインターネット上に掲載されている誤った情報を正しいと思いこんでしまい、それを他の児童・生徒に広めてしまうといったことは、十分にあり得る。

これらの例が示すように、多数決が常に「正しい」わけではないということ、子供たちは理解する必要がある。そして、ESD で重視される探究的な学びを推進していく際には、自らの考えの根拠となるものを明確に提示し、それを論理的に説明することが大切である。一人一人の児童・生徒がそうした意識をもちながら協働したり、対話したりすることで、より深い学びを実現することができる。そうした学びを支援するためにも、多角的な視点から物事を見て、考える、という習慣を、教師自身も常日頃から実践することが必要ではないだろうか。

このような留意点を指摘しつつも、今年度の各研究実践からは、教科の特性を活かして、子供たちの興味・関心を丁寧に引き出し、より主体的な学びを一人一人の子供が行えるように、様々な工夫を重ねた様子が明確に見えたことを高く評価したい。

今後、さらに検討すべきテーマとしては、今年度の研究で見られたような優れた ESD の実践を、より学校全体の取組として、さらには、地域も含めた取組として、いかに包括的なものにしていくかという「ホールスクール・アプローチ(機関包括型アプローチ)」の実現だと考える。多摩地区の学校で、そうした取組が広まって行くことを期待しつつ、小論の結びとしたい。



参考文献

国立教育政策研究所(2012)「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(最終報告書)」

委員名簿

委員長 中村 宗嗣 (檜原村教育委員会 教育長)

副委員長 吉成 嘉彦 (昭島市教育委員会 指導課長)

特別委員 北村 友人 (東京大学大学院教育学研究科 准教授) (東京都教育委員会委員)

委員

<八王子市立別所小学校>

部会長	校長	記野 邦彦
副部会長	副校長	小泉 美樹
代表部員	教諭	金子 祥也
	主幹教諭	長南 敦
	主幹教諭	坂本 薫
	主任教諭	石塚 史子
	主任教諭	土屋 奈美
	主任教諭	西山 由佳
	主任教諭	設楽 大吾
	主任教諭	石樽 玲子
	主任教諭	末吉 隆一
	教諭	吉村真生子
	教諭	高木 綾子
	教諭	菊本 恭代
	教諭	遠藤 千尋
	教諭	小野 恵
	教諭	澁谷 洋樹
	教諭	渡辺 吉浩
	教諭	安齋 椋
	教諭	山口 紘和
	主任養護教諭	阿部 和代
	臨時的任用教員	小林 直美
	臨時的任用教員	白取 雅大
	臨時的任用教員	藤原 昭子
	臨時的任用教員	堂下万里子
	専門員	近藤 美帆

<狛江市立狛江第三小学校>

部会長	校長	荒川 元邦
副部会長	副校長	岸田 和之
代表部員	主任教諭	松村 隆寛
代表部員	主任教諭	中山 美和
	主幹教諭	森谷 亨
	主幹教諭	宮本 利樹
	主任教諭	田畠美奈子
	主任教諭	萩原 直樹
	主任教諭	森村美和子
	主任教諭	飯間 勝宏
	主任教諭	伊藤 真紀
	主任教諭	直井 大明
	主任教諭	宮崎 弘美
	主任教諭	伊藤 彰子
	主任教諭	佐藤 友佳
	主任教諭	縣 絵美
	主任教諭	御幡 友香
	教諭	青木 謙介
	教諭	宮下 佳典
	教諭	伊藤 裕美
	教諭	木南 結貴
	教諭	林 小織
	教諭	天坂 誠
	教諭	佐々木晶子
	教諭	平井 敬之
	教諭	馬場 智彬
	教諭	岡田 克己
	養護教諭	石井 円
	臨時的任用教員	加藤 夏来

<檜原村立檜原学園檜原小・中学校>

部会長	校長	乙津 秀敏
副部会長	副校長	田中 暁
代表部員	主幹教諭	堀本 太郎
代表部員	主任教諭	山口 高志
代表部員	主任教諭	山田 剛史
	主任教諭	工藤由里子
	主任教諭	根本 夕芽
	主任教諭	河野 香織
	主任教諭	竹内 啓太
	教諭	小林 忍
	教諭	藤澤 紫織
	教諭	松澤孝太郎
	教諭	吉井 美里
	主任養護教諭	新藤 智美
	臨時的任用教員	奥山 聡
	専門員	北畠 禎子
部会長	校長	森本 友明
副部会長	副校長	戸田 礼子
代表部員	主幹教諭	加藤 大介
代表部員	主任教諭	中村 哲也
代表部員	主任教諭	福田 佳奈
	主幹教諭	鈴木 達己
	主任教諭	竹内 恵
	主任教諭	入江 理恵
	主任教諭	樋口 孝
	教諭	浦野 真理
	教諭	田中 朋也
	教諭	正木 隆盛
	教諭	高橋菜津美
	養護教諭	内田佳世子
	臨時的任用教員	森田 将史

<昭島市立瑞雲中学校>

部会長	校長	山下 久也
副部会長	副校長	阿部 啓介
代表部員	主任教諭	岩城 博之
代表部員	主任教諭	井上 貴裕
	主幹教諭	竹澤 大樹
	主幹教諭	深和 大樹
	主任教諭	濱田 豊
	主任教諭	坂下 裕和
	主任教諭	齋藤 美絵
	主任教諭	原田 浩子
	教諭	伊藤沙也佳
	教諭	持田 繁和
	教諭	岡崎 佳子
	教諭	前澤美奈子
	教諭	長友 謙治
	教諭	久保 裕司
	教諭	佐藤 雄太
	教諭	小西 進
	教諭	宮木 節子
	教諭	古賀 彩乃
	教諭	上石 絢子
	教諭	未安 真
	教諭	長井 達志
	教諭	小谷野 龍
	養護教諭	小嶋知世梨
	臨時的任用教員	小幡 若子
	臨時的任用教員	川添 智史
	臨時的任用教員	平澤 光洋

事務局 東京都多摩教育事務所

所長	松尾 正純	指導主事	森山 健史	教員専門員	松本 信之
指導課長	岡部 君夫	指導主事	嶺井 勇哉	教育専門員	辻 泰成
統括指導主事	美越 英宣	指導主事(併任)	山ノ口寿幸	学校教育指導専門員	富田 広
指導主事	齋藤 将之	指導主事(併任)	安部 峰	学校教育指導専門員	渡部 公威
指導主事	阿部 梢	教育専門員	菊池 春海		

東京都多摩地区教育推進委員会

第26次計画(通算第47年次)報告書

令和3年2月

編集・発行

〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3

TEL 042-524-7222 FAX 042-528-0985

印刷 株式会社シンソークリエイト

登録番号 2(4)

アンケートの御協力をお願い

右の二次元コードを読み取り、アンケートに御回答いただき、本報告書の御意見をお聞かせください。

